

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道153号 豊田北バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局																																		
起終点 自：愛知県豊田市逢妻町 至：愛知県豊田市勘八町	延長 5.7km																																			
事業概要 一般国道153号豊田北バイパスは、愛知県豊田市逢妻町を起点とし、同市勘八町に至る延長約5.7kmのバイパスであり、豊田外環状の一部を構成し、豊田市街地の交通渋滞の緩和、交通安全の確保及び東海環状自動車道豊田勘八ICへのアクセスの確保を目的に計画された道路です。 豊田市は自動車産業の集積地となっており、豊田市中心部や周辺路線には、主要渋滞箇所や、死傷事故率の高い箇所が多数存在するなど多くの課題があり、本事業は、課題解決のために豊田北バイパスを整備することで、交通渋滞の緩和や交通事故の削減、物流効率化の支援などの効果を見込んでいます。																																				
H18、 H20年度事業化	S60年度 都市計画決定 （計画変更：H2年度）	H21年度用地着手																																		
H25年度工事着手																																				
全体事業費 449億円	事業進捗率 （令和3年3月末時点）	約62%																																		
		供用済延長 0.8km																																		
計画交通量 37,000台/日																																				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;"><small>（残事業）/（事業全体）</small></td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;"><small>（残事業）/（事業全体）</small></td> <td style="width: 15%;">基準年</td> </tr> <tr> <td><small>（事業全体）</small></td> <td>2.0</td> <td colspan="2">359/2,374 億円</td> <td colspan="2">2,349/4,781 億円</td> <td rowspan="3">令和3年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2.7)</td> <td colspan="2">事業費：276/2,190 億円</td> <td colspan="2">走行時間短縮便益：2,201/ 4,486 億円</td> </tr> <tr> <td><small>（残事業）</small></td> <td>6.5</td> <td colspan="2">維持管理費：83/ 185 億円</td> <td colspan="2">走行経費減少便益：132/ 272 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(8.1)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">交通事故減少便益 16/ 22 億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C		総費用	<small>（残事業）/（事業全体）</small>	総便益	<small>（残事業）/（事業全体）</small>	基準年	<small>（事業全体）</small>	2.0	359/2,374 億円		2,349/4,781 億円		令和3年		(2.7)	事業費：276/2,190 億円		走行時間短縮便益：2,201/ 4,486 億円		<small>（残事業）</small>	6.5	維持管理費：83/ 185 億円		走行経費減少便益：132/ 272 億円			(8.1)			交通事故減少便益 16/ 22 億円				
B/C		総費用	<small>（残事業）/（事業全体）</small>	総便益	<small>（残事業）/（事業全体）</small>	基準年																														
<small>（事業全体）</small>	2.0	359/2,374 億円		2,349/4,781 億円		令和3年																														
	(2.7)	事業費：276/2,190 億円		走行時間短縮便益：2,201/ 4,486 億円																																
<small>（残事業）</small>	6.5	維持管理費：83/ 185 億円		走行経費減少便益：132/ 272 億円																																
	(8.1)			交通事故減少便益 16/ 22 億円																																
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=1.8~2.2（交通量 ±10%）（残事業）交通量：B/C=5.9~7.2（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.0~2.0（事業費 ±10%）事業費：B/C=6.1~7.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.9~2.2（事業期間±20%）事業期間：B/C=6.0~7.1（事業期間±20%）																																				
事業の効果等																																				
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線（名鉄バス等）が存在する。																																				
②都市の再生 ・区画整理（豊田市豊田平戸橋土地区画整理事業等）の沿道まちづくりとの連携あり。																																				
③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「衣浦豊田道路」の一部として、全区間が指定されている。																																				
④個性ある地域の形成 ・主要な観光地（香嵐渓等）へのアクセス向上が期待される。																																				
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（豊田厚生病院）へのアクセス向上が見込まれる。																																				
⑥災害への備え ・現道の架替の必要のある老朽橋梁（平戸橋）における通行規制等が解消される。																																				
⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。																																				
⑧生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。																																				

